

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策1 県民の総力を結集できる行政の推進
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 しまね暮らし推進課長 仁科 慎治郎 電話番号 0852-22-6179

事務事業の名称	地域の活力創出支援事業	
目的	(1) 対象	住民等
	(2) 意図	地域の課題解決や活性化に資する取り組みを推進する。
事業概要	地域の活性化を推進するため、全県の共通課題、圏域課題、個別課題の解決に向けた先鋭的、モデル的な取り組みを総合的に支援	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	取扱件数	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	件
		取組目標値							
	式・定義	優良モデル創出事業数	実績値	10.0					%
		達成率	-	-	-	-	-		
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	52,781	39,800
うち一般財源 (千円)	52,781	39,800

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・H27優良モデル創出事業の取扱件数実績は10件で目標値に達し、地域において様々な事業構想や先鋭的な事業の試行が行われた。この取り組みが他地域に波及し、広域的な地域課題の解決に繋がっていくものと期待される。

・優良モデル事業の成果を取り入れた横展開として、市町村において過疎対策事業債のソフト事業分の活用により、地域団体や多様な主体と連携した地域課題の解決に向けての取り組みが進んでいる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○全県的な課題、広域的な課題、各市町村における課題など各課題の解決や活性化に資する取り組みを支援。特に中山間・定住対策における「優良モデル事業」の創出を目指し、先鋭的な取り組みを支援。

H27優良モデル事業は次のとおり。

- ・国道54号線沿線のサイクリングを活用した活性化
- ・地域と市町村が連携した空き家対策の推進
- ・地域課題を解決しようとする人材の育成と地域活動の充実を図るために、学生と地域活動団体が効果的に関わる機会を創出する事業 など計10件

○一部の先鋭的な取り組みについては、事業実施によるノウハウを蓄積し、他地域へ横展開に向けて情報提供を行っている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・地域の実情や課題、ニーズをよりの確に把握した上で施策をブラッシュアップさせていき、優良モデル事業等をこれまで以上に作り出していく必要がある。
- ・ソフト事業を積極的に実施し、成果を上げている市町村があることから、このような取り組みを他の市町村にも波及させることが必要。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターが支援し、積極的な取組を行っている特定の地域、各種団体がある一方、支援の関わりが薄い地域、各種団体については地域づくりに向けての取り組みも低調であり、情報も少ない。
- ・市町村がソフト事業を実施するための予算財源が十分確保されていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・より多くの地域、各種団体との関わりや情報を得ていくため、しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターがより多くの地域に積極的に関わり、他部局や市町村及び多様な主体と一層の連携を図り、情報共有できる体制の強化。
- ・市町村の取り組みを支援するため、過疎市町村がソフト事業に活用できる過疎債（ソフト事業分）の確保・拡充。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・新たな定住対策や産業振興策、地域を担う人材育成など地域課題解決に向けた先鋭的・モデル的な取り組みや試行を施策立案するため、地域の実情を今まで以上に的確に把握する必要がある。

・そのためには、しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターが他部局や市町村との意見交換、情報共有を定期的に行い、また、その情報を基に普段関わりの薄い地域や各種団体にも積極的に足を運んだうえで、地域の課題やニーズを様々な角度から洗い出し、共有し、優良モデル事業等の新たな施策を創出していく。

・特に過疎地域においては、市町村の取り組みの財源的な支援のため、国への重点要望等の機会を通じ、過疎債（ソフト事業分）の確保・拡充を要請していく。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）